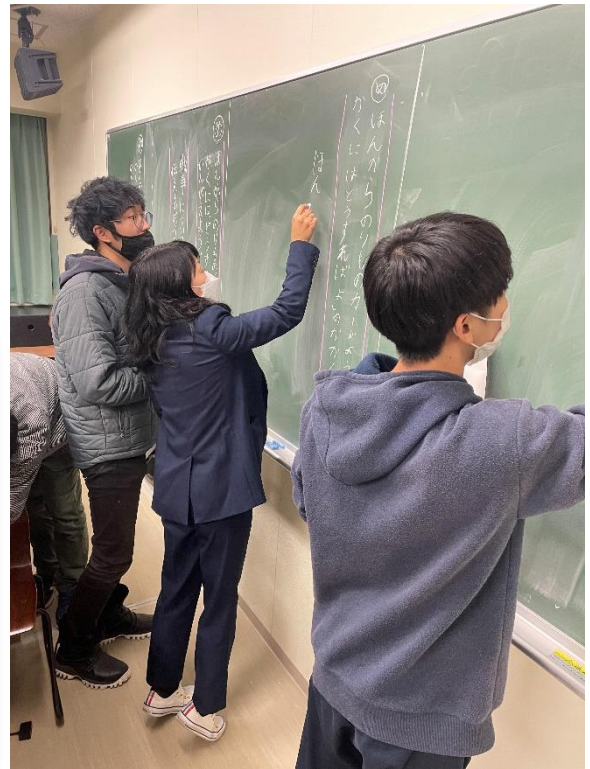


## 附小教員が大学の授業「板書演習」の講師として登場!

11月30日(水)4限、大分大学教育学部2年生を対象とした「板書演習(第6回目)」に、本校職員(桐野指導教諭、梅木研究主任)が講師として招聘されました。実際の学校現場で活用するための板書のポイントを説明しました。演習では、実際に本校教員が板書を書いてみせることで、文字の大きさ・正確性、色チョークの使い方、書くスピード、板書の構造化などの理解を深めてもらいました。また、学生の板書をチェックし、一人ひとりの改善点を指摘し、目的意識やノートとのつながりも指導しました。



学生の板書を指導する桐野指導教諭(中央)

**第6回  
板書演習**

大分大学教育学部附属小学校  
実習主任 桐野 愛  
実習副主任 梅木 崇裕

これまでの学習を活かして

- 実際に授業することを意識して板書しましょう。
- ・そのために、今日は実際の板書を見ましょう。
- ・どんなことに気をつければいいのが、考えましょう。
- ・それを活かして練習しましょう。

**低学年と高学年の  
板書を比べてみましょう**

低学年は、黒板の字がすごく大きいというイメージがありますが、そんなことはありません。

### 板書演習後の学生のアンケートより

- ・桐野先生が文を書くところを見せていただきました。チョークを動かす速度がすごく早いのに関わらず、止め、はね、はらいはすごく丁寧にされていて、こんな上手い書き方が出来るようになりたいと思いました。
- ・特に板書の構成のバランスについて気づきが多かった。自分はどこで文を区切るかの理解しておらず、毎回迷っていたので大変参考になった。
- ・講義で学習したことは、板書の中で何を目的とするのか、だれに向けて書くのかを意識することが大切になるということです。目的では、ノートにそった板書や構成をしっかりと考えることでまとまった板書にすることができ、そのための準備が大切になることを学びました。
- ・板書は基本的に3分割で構成したら綺麗な黒板ができあがるといったことや、改行の仕方、行間の取り方、など細かいところまで気を使って書かなければ、子どもたちの思考に直結した板書が完成されないということを学ぶことができた。

※板書演習の講義映像と資料を附属小学校HPに掲載し公開しています。

[kitchom.ed.oita-u.ac.jp/fusyo/kyouiku\\_jissyu.html](http://kitchom.ed.oita-u.ac.jp/fusyo/kyouiku_jissyu.html)